100号記念特別企画「俳句大会」

『大鋲協』100号記念企画として俳句大会を実施したところ111名の方から208句のご応募をいただきました。本号表紙に掲載された3枚の写真を題材として、感性豊かな味わい深い作品が多く集まりました。特選に選ばれた3句、そして入選作12句を久保純夫先生のご選評と共にご紹介致します。

特選（3句）

行く春に
ゆがんでみえた
鉛色

㈱コノエ
渡瀬友結 さん（14）（渡瀬裕行 様 御息女）
中高生の部　題材：蒸気機関車の車輪

〔選評〕春には多くの出発があります。その春が去ろうとしている情況には何かしらの感懐があることでしょう。鉛色の物体が歪んでみえるのは、少し鬱屈したものがあるのかもしれません。

荒梅雨や
タワーの螺子の
緩みなき

由良産商㈱
内田　茂 様（67）（内田庸友 様 御父様）
成人の部　題材：東京タワー

〔選評〕最近は荒梅雨という語よりも、線状降水帯などという言葉が日本列島を席捲しているかもしれません。そんな状況の中でも、塔はびくともしません。螺子というものの存在の確かさがよく出ています。

見る場所で
表情違う
赤い塔

サンコーインダストリー㈱
森　彩乃 様（24）
成人の部　題材：東京タワー

〔選評〕さまざまな「もの」、この句の場合の「赤い塔」はその人によって表情が異なります。想い、記憶がこもっているからです。つまり場所とは作者の心のありどころでしょう。

入選（12句）

車りんたち
ぎんがてつどう
ゆめ見てる

㈱コノエ
渡瀬瑛友 さん（9）（渡瀬裕行 様 御子息）
小学生の部　題材：蒸気機関車の車輪

〔選評〕ぎんがてつどうという言葉には、宮沢賢治や999の世界がこもっています。地上にある車りんはそういう世界を夢見ているのでしょう。その擬人化が作者の想いと重なっていい句になりました。

梅雨晴れに
今この瞬間
そびえ立つ

ケイエスティ㈱
香川千秋 さん（11）（香川敦子 様 御息女）
小学生の部　題材：東京タワー

〔選評〕梅雨の時期は蒸し暑い。そんな時にも時おり太陽が顔を出します。その青空は高塔の存在感を際立たせるのです。

スチームの
心地よき音に
馳せる夏

㈱コノエ
大津高明 様（48）
成人の部　題材：蒸気機関車の車輪

〔選評〕蒸気機関車は暑い夏の季節にあっても懸命に走る。その音に作者は心地よさを感じているのです。

のっそりと
止まる車輪や
雲の峰

大西鋲螺㈱
大西陽子 様（74）（大西啓文 様 御母様）
成人の部　題材：蒸気機関車の車輪

〔選評〕のっそりとという表現で、大きな車輪だとわかる。大仕事を果たした機関車。背景にある入道雲に不穏な感じもうかがえる。

ネジ立たせ
小さいけれど
タワーの様

大西鋲螺㈱
奥山明彦 様（48）
成人の部　題材：東京タワー

〔選評〕大きいものを小さく、微小なものを巨大に表現するのは俳句形式のひとつの手立てです。ネジ遊びの様子がうかがえて、愛らしい感じです。

曇天の
向こうに写る
きれいごと

由良産商㈱
北野真希 様（35）（北野寛幸 様 奥様）
成人の部　題材：東京タワー

〔選評〕コロナ禍の世界にあって、表面だけを取り繕う人や組織が露わになっています。「曇天」がその象徴でしょう。ただその向うにある、きれいごとは、何かしらの希望とも読むことができるでしょう。

これうちの
タワーを見ながら
子に自慢

サンコーインダストリー㈱
指輪健二 様（36）
成人の部　題材：東京タワー

〔選評〕子どもに自慢できる仕事があったのは、嬉しいことでしょう。それに感動してくれれば、何もいうことはないのですが・・・。

軋む音
響き合わさる
蝉の音と

サンコーインダストリー㈱
嶋田　元 様（47）
成人の部　題材：蒸気機関車の車輪

〔選評〕動輪が止まる音と蝉時雨の競演。それは互いの立場を強調するわけではなく、讃え合っているという意識が作者の心根でしょう。

真っ赤っか
リベット打ちこむ
日の技や

サンコーインダストリー㈱
下司恵美 様(32)
成人の部　題材:東京タワー

〔選評〕鋲を打ち込むにも素人にはわからない緻密な技術が必要なのだろう。そういう誇らしさがあふれています。

カシメ屋と
リベットに支えられ
63年

㈱コノエ
丹下昌子 様(34)
成人の部　題材:東京タワー

〔選評〕単なる報告のような表現ですが、確かに詩の世界があります。作者の想いの深さでしょう。

電波塔
近くで見れば
鋲だらけ

大西鋲螺㈱
新田英介 様(45)
成人の部　題材:東京タワー

〔選評〕巨大な塔はさまざまな部分に支えられてひとつの構造物になっている。鋲だらけ、という表現が愛情のあらわれでありましょう。

世の中の
エコで廃れる
動力源

㈱コノエ
長谷俊郎 様(64)
成人の部　題材:蒸気機関車の車輪

〔選評〕化石燃料は地球温暖化の原因とされ、徐々に地球上からなくされようとしている。当然のこととは思っても、何となく悲しい。

〔選者〕久保 純夫（くぼ すみお）先生
1949年大阪府生まれ。現代俳句協会副会長、関西現代俳句協会会長。受賞歴として1979年第8回「花曜賞」、1986年第15回「六人の会賞」、1993年第42回「現代俳句協会賞」を受賞。
著書に句集『瑠璃薔薇館』『水渉記』など

◆題材写真提供＝㈲金属産業新聞社　紙面企画「ねじ色百景」より
※大会の賞品及び参加賞は追って組合事務局より送付致します。